

西南学院大学 図書館報

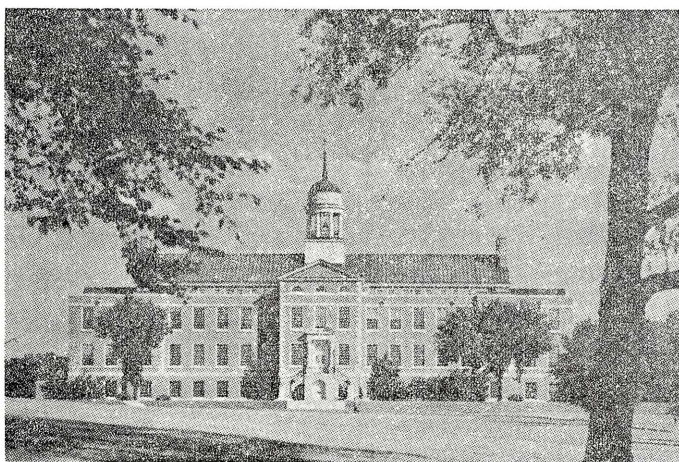
No. 36

1967年10月1日発行

福岡市西新町
西南学院大学図書館
編集人 山下和夫

欧米の大学図書館を見て (1)

坂本重武



図書館長坂本重武教授は、さる7月8日から欧米への旅に出られバプテスト世界連盟研究委員会への出席や欧米の大学図書館の視察などを果され、8月25日無事帰任された。その視察報告を2回にわたって掲載する。

◀ Z. Smith Reynolds Library
Wake Forest College

この夏は、欧米を廻って、できるだけ多くの大学を訪問した。大学では、特に、図書館に重点をおいて見た。それは、職業がらであると同時に、目前に控えた図書館新築の参考にするためであった。しかし、短い期間に、30近くの図書館を見たので、その印象は交錯してしまっていて、撮影してきたスライドを見ても、はたしてどこの図書館であるか、すぐには思い出せないほどである。しかし、スライドの番号を見たり、日記帳を読みかえしたり、その図書館で出している図書館案内を参考にしたりしていると、次第に記憶がよみがえってくるのである。

まず、最初におとずれたのはハワイ大学であった。折柄土曜日であったので、授業は行われていない。たずねる人にも連絡がつかなかった。しかし、図書館だけはちゃんと開かれていた。入口には学生アルバイトらしいのが本を読んでいた。日本から来たものだが、ちょっと図書館を見学してもらいたい、と言うと、「シュア」と快よくゆ

るしてくれた。どこの何者ともわからないのに、入館させてくれたのは大変気持ちがよかった。人が開放的であるばかりでなく、場所もひろびろと見えた。その点われわれの図書館は実にせせこましくて、かつ、閉鎖的であるように思われた。さて、入口をはいるとはるか正面にサーキュレーションがある。これはホールのなかに半円形に張り出して、ゆったりと応接が出来るようにつくられていた。向って左方にはひろびろとした閲覧室があった。夏学期の、しかも、土曜の午後ときているので、人影はまばらであった。建物にくらべるとテーブルやイスは非常に簡素なものであった。向って右の方は目録がずっととならんでおり、また、その奥にもすこし閲覧机が見えた。1階だけはL字型になっていて、突出した部分も、閲覧室になっていた。天井までガラス張りで、外にはハワイらしい植物が茂っていた。この部分には中2階があって、のぼるとそこは辞書室になっていた。この図書館で惜しかったことは、図 [次頁へ]

[前頁より] 書館の案内書をもらいそこなったことである。したがって、1階だけでどれだけの坪数があるか、どの位の座席数があるか、はっきりと言えないのは残念である。しかし、ともかくひろびろとしていたことは事実である。われわれの図書館は各階が壁で仕切られて、いくつかの部屋になっているが、この図書館は柱のほかは目をさえぎるものがない。

2階にあがると、そこは書架の連続である。閲覧部分はほんのわずかである。その横には参考係のデスクがあった。日本の図書館では閲覧部分と館員との間にはなにか遮断するものがある場合が多いが、アメリカの大学図書館では閲覧部分のなかに館員のデスクがあって相談しやすくなっている。

3階にのぼって、窓から見るとハワイの街が見える。そこそこにヤシの木がある。ダイヤモンド岬もはるかに見える。15年ぶりに見るハワイの景色は実に美しかった。そして、それは、読書に疲れた人々の眼を慰めるにちがいないと思った。

ハワイからロスアンジェロスに飛んで、南カリフォルニア大学の図書館を見学した。それから、ダラスに飛んで、そこでドージア院長夫妻と合流して、古賀先生と私の4人で南部の諸大学を歴訪した。諸大学と言っても、主としてバプテスト関係の大学であって、各大学で手厚い歓迎を受けた。学校の詳しい説明と案内はもちろん、昼餐や晚餐の接待も受け、立派なゲストルームに宿泊の便宜を与えてもらったりした。図書館も館員の方から隈なく案内してもらった。

私はだいぶん以前のことはあるが、アメリカの大学図書館を1年近く利用した経験があるので、別にももの珍しくはなかったけれども、われわれのせまってくるしい現在の図書館に引きくらべると、ゆったりとしたアメリカの大学図書館はやはり羨しかった。アメリカの大学は、だいたいにおいて、キャンパスがひろいが、図書館はその広い芝生のなかに堂々たる姿を示している場合が多い。たとえば、南カロライナ州グリーンビルにあるファーマン大学なども、キャンパスのキレイな大学のひとつであった。盛夏であったけれども、芝生は眼もさめるように緑で、豪華な噴水がところどころに見えた。説明によれば、この噴水は冷房

用水を利用したものとのことであった。南部の夏は暑い、それでも、どこかの大学でも夏学期の授業をしている。それには冷房が必要である。ある大学の学長さんはわれわれを案内しながら、冷房装置をつけないで大学の建物をたてるのはフーリッシュであると言われた。したがって、南部の大学の図書館は例外なく冷房装置がある。費用は大したものであろうが、これによって、夏休み中あいている教室を利用して教育を行い、また、勉強の能率をあげることができれば、むしろ、やすいものとも言えるかも知れない。

母校ベイラー大学を訪れて驚いたのはその著しい変貌ぶりであった。かつて住んだことのあるブルックスホールという学寮の前の民家や店はすっかり取り払われて、カナダからメキシコまで通ずるというハイウェイができていた。図書館の様相も、私がいたころとは随分変っていた。しかも、手狭になっていると見えて、新図書館が建築中であった。相当大きなもので、エスカレーターの設備が予定されているということであった。新図書館の図面ののった募金用のパンフレットも見せてもらったが、面白いことに、そのパンフレットに記載されている建築予定地とは全く違った場所に、図書館が建てられつつあることであった。西南でも図書館の建築場所は二転三転したが、ベイラーでも同様であったらしいのである。まだ、旅程の5分の1にも達しないが、紙数がつきたので、今回はここまでとする。

告知板

- 試験期夜間開館実施中 試験期は開館時間を延長して夜9時まで開いています。試験の終る前の日10月4日までです。ご利用ください。
 - 休館その他の予定 10月6・7日(金・土)は大学休業により休館します。11月上旬の大学祭期間中は開館時間は午後5時までとなります。ご承知ください。
 - ロッカーの増設 入館者の増加に伴い、ロッカーを増設しました。
 - 卒業論文製本代金について 卒業論文は製本の上図書館に保管されることになっています。次の製本代金を経理課に納入し、その領収書をそえて論文を教務課に提出してください。
- | | | |
|------------|----|------|
| 英文学科学生 | 1人 | 60円 |
| 商学部・経済学部学生 | 1人 | 180円 |

図書館で使用しているローマ字について

本館ではヘボン式ローマ字を使用している。本館の目録カードはアルファベット順に配列されているので、日本の著者や書名は一応ローマ字化した上で並べなければならないが、そのローマ字化にヘボン式が使用されているわけである。ところで、ローマ字綴りには、ヘボン式のほかに日本式や訓令式などがあるのは周知のとおりである。ヘボン式にすると、シを shi、チを chi と綴ることになる。我々の住んでいる福岡は、Hukuoka でなくて、Fukuoka と綴るわけである。本館でヘボン式を採用することに決めたその理由は、欧文の間に日本語の単語をはめこんだ場合の音声の共通性と、それに加うるに、本学の研究者の多くがヘボン式の方に慣れているという事情からであった。ところが昭和37年に国立国会図

書館にローマ字切替えの問題が抬頭して以来、俄然ローマ字問題が図書館界をにぎあわせることとなり、ヘボン式と訓令式との賛否の論争が激しく繰返されたのであった。音声学にまで遡ってのこれらの議論については、我々はただ傾聴するだけで、一々これを云々するつもりはない。しかし、それぞれの主張を聞いていると、全くいづれがよいのか迷うのであり、従っていずれを採用するかは特に慎重に検討すべきことを痛感させられるとともに、ローマ字綴り方が幾通りもあることの不便さが考えさせられるのである。我国のローマ字が一日も早く統一化の方向に進むことが望まれてならない。次に掲げるのは、本館で使用しているヘボン式ローマ字綴り方表である。

ヘボン（標準）式ローマ字つづり方表

a	i	u	e	o	ya	yu	yo
ア	イ	ウ	エ	オ	ヤ	ユ	ヨ
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
カ	キ	ク	ケ	コ	キヤ	キユ	キヨ
sa	shi	su	se	so	sha	shu	sho
サ	シ	ス	セ	ソ	シャ	シュ	ショ
ta	chi	tsu	te	to	cha	chu	cho
タ	チ	ツ	テ	ト	チャ	チュ	チョ
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ニヤ	ニユ	ニヨ
ha	hi	fu	he	ho	hya	hyu	hyo
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヒヤ	ヒユ	ヒヨ
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
マ	ミ	ム	メ	モ	ミヤ	ミユ	ミヨ
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
ラ	リ	ル	レ	ロ	リヤ	リュ	リヨ
wa							
ワ							
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ギヤ	ギユ	ギヨ
za	ji	zu	ze	zo	ja	ju	jo
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ジャ	ジュ	ジョ
da	ji	zu	de	do	ja	ju	jo
ダ	(ヂ)	(ヅ)	デ	ド	(ヂヤ)	(ヂユ)	(ヂヨ)
ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ビヤ	ビユ	ビヨ
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo
パ	ピ	プ	ペ	ポ	ピヤ	ピユ	ピヨ

- はねる音はn,ただし b m p の前はmであらわす。
(例) amma (あんま) kamban (看板)
dempô (電報) tenki (天気) annai (案内)
shimbun (新聞)
nの次に a i u e o, Ya Yu Yo が来るときはn-と書く。
- つまる音は、次に来る字を二つ続けて書く。ただし c の時は、これをかさねないで t を加える。
(例) sekkei (設計) zasshi (雑誌) detchi (でっち)
yottsu (四つ) Nippon (日本) sekkyô (説教)
ressha (列車) itchô (一町)
shotchû (しょっちゅう) happyô (発表)
- 長くひく音は a i u e o に ^ をつける。
- 特殊な音をあらわす必要のある時は、次のようにつづることがある。
クワ kwa. グワ gwa. スイ si. テイ ti. トウ tu.
ヂ dji. デイ di. ヅ dzu. ドウ du. ダヤ dja.
ヂュ dju. デョ djo. ツア tsa. ツイ tsi. ツエ tse.
ツオ tso. ファ fa. フィ fi. フェ fe.
フォ fo. ラ° la. リ° li. ル° lu. レ° le. ロ° lo.
キ wi. ウ wu. エ we. ヨ wo. ヴァ va.
ヴィ vi. ヴ vu. ヴェ ve. ヴォ vo.
- 文章のはじめ、人の名・土地の名などは大文字で書きはじめる。

■ ニュース

＜図書館委員会＞

42. 4. 13 昭和42年度図書費配分について
 42. 5. 12 新図書館建築に伴う諸問題について（学研との合同委員会）
 42. 6. 3 増加図書目録のあり方について、寄贈文庫の取扱について、資料センターについて他
 42. 6. 29 図書費の配分について

＜図書館建築計画委員会＞

42. 4. 25, 42. 6. 15(図書館・学研との三者合同委員会),
 42. 6. 22, 42. 7. 4, 42. 8. 22, 42. 9. 8

いずれも新図書館の建築計画について審議が進められた。

■ 国立学校図書専門職員採用試験のこと

さる8月5日に人事院から公告が行われた国立学校図書専門職員というのは、国立大学の図書館などで専門的な職務に従事する職員のこと、上級、中級各試験に分れており、上級に合格すると公務員上級職の合格と同扱いになります。詳細は就職課または図書館まで。

文部省委嘱の図書館職員養成の司書、司書補、司書教諭の講習は、昭和26年以来毎年7月から8月にかけて各地で開講されていますが、今年も九州では八幡、別府、南九州の各大学で開かれ、私は八幡大学の司書講習に参加しました。何しろ7月15日から8月28日までという真夏だったのと、八幡大学まで通っていたのとでこの期間は、かなりしんどかった。この講習には、図書館関係機関に勤めている者の他、一般、学生、教員の方々からも多数参加していました。

開講式の日に出席して驚いたことは、女性が非常に多いということでした。それもこの司書の資格というのは、案外簡単に取得でき、一つの嫁入り道具として女性には大きな魅力というのが文部省の方のお話でした。

私は今年学生生活を終えて、西南学院大学の図書館に社会人としての職場を見出し、わずか3ヶ月足らずの図書館勤務で、ようやく自分の仕事にも、職場としての図書館の雰囲気にも慣れてきたところで、この講習に参加したので、講習を受ける前と、現在講習が終了後では、私の大学図書館に対する考え方とライブラリアンとしての考え方に大きな差異が生じ、最初は女性の職場のような図書館に勤めているのは肩身の狭い思いをしていたが、次第にLibrarianとして誇りを感じるようになりました。私も従来のように図書館とは、利用者が要求する図書、資料を提供する機関ぐらいにしか理解していなかったのですが、講習を受けて

■ 寄贈図書

- 総理府統計局より 国勢調査報告 昭和40年 38冊
 ○同志社大学より 同志社九十年小史
 ○大森衛助教授より ドイツ語入門他6冊
 ○大崎正治講師より 社会経済学
 ○進藤誠一教授より スタンダード仏和辞典
 ○中原千勝教授より 錬成商業簿記
 ○井上忠教授より 江戸時代における唐版持度書の研究
 ○シエパード夫人より 楽器の歴史 上・下
 ○魚谷富枝氏(68—127)より 産業界と会社展望
 ○藤居康二郎氏(65—611)より ロマ書他8冊
 ○松井康秀氏より 熊本洋学校とその周辺

■ 牽仕係より

試験期に入り利用者が多くなると、館内が混乱してきます。静粛をまもって下さい。又、書架も乱れがちになります。利用した本は、必ず出口の返却棚に返して下さい。書架に並べる人がいますが、順序が乱れるものになりますので、御協力下さい。いよいよ読書の秋、図書館で快適な読書をどうぞ。(S)

「司書講習に参加して」

広津義純

いくうちに、大学図書館に対する認識が変ってきたのでした。すなわち、我々の意志の決定をする情報はますます複雑となり情報を必要とする度合は、それに応じて増大している。その複雑化が現代社会の特色である。情報量が増大するにつれ、個々の意志決定に必要な情報を収集し、調査し、選択する過程が大学図書館の大きな仕事となってくるというのです。多くの場合、これらの仕事の規模は、これまでの技術では処理できないくらい大きくなってきているので、ただ新しい技術が必要と思われるだけでなく、その技術を生かす器械類(Computer, 写真プロセス等)による情報の蓄積と検索が導入されてきたのです。このことからしても、これからの Librarian は職人となることなく、技術者となるように励んで下さいと言われた川口先生(八幡大)の言葉がいまでも印象に残っています。

図書館施設の面から言っても、これからの図書館は何か特色を出さないかぎり、今の学生を図書館で勉強してもらうようにするには困難のように思われるというのです。丁度、映画が一時T.V.やLeisureに客をうばわれた時にその打策策として、「各社の特色ある良い映画を豪華な劇場で上映すれば、必ずお客はきてくれる」といってこの策を取り入れて景気を取りもどしつつあるように。幸い西南の場合は、新しい図書館が建築になる予定なので、建築設計の場合考慮していただきたいと思って記したのです。(本館司書)